

# おうちで暮らそ♪プロジェクト

NPO公益活動支援事業（補助金）

◆団体名：特非) cocolon

◆事業年度：平成29年度



## 団体の概要

北九州市小倉南区を活動拠点とし、さまざまな障がいや病気をもつ子どものいるご家族や、さまざまな専門家のサポーターの方々と一緒にイベントをしたり、ゆっくりな活動をしています。

2016年より、相談支援事業を開始しています。

2019年は活動をはじめて8年目を迎えることができました。

家族登録数約90組、サポーターさん約40名、みなさんと活動をしています。

## 事業の目的と概要

NICUや入院している病院からの退院後の暮らしについての相談会を実施。

家族がかかえる悩みを、先輩ママパパと一緒に相談したり、解決。

入院中の家族と家族、家族と先輩家族のつながりづくりを目的としています。

## 事業費とその主な内容

■事業費 117,680円（うち補助金額 58,000円）

委託費（チラシデザイン代、印刷料）、交通費（高速代、駐車場第）、  
備品費（マット代）、消耗品費（用紙代）  
役務費（郵送料）

## 事業の成果

今回のプロジェクト開始初年度の目的は、まず、「してもらうこと」でした。

プロジェクトのカードを製作し、病院やご家族、関係団体に配布しました。

カードを見て病院や家族たちのつながりから、相談の依頼も頂きました。

少しずつですが、市民の方からの反応もあり、こういう生活を経験している方がたくさんいることを知っていただけました。

また、1件ですが病院からの依頼を頂けたことが私たちにとってすごく大きな一歩になりました。

■参加人数のべ50名  
学生、ご家族など、



■相談会実施

6/23. 7/7. 9/6. 9/8. 9/13. 9/22. 10/13. 10/28. 11/17. 12/8.

小倉南区の活動拠点、コムシティにて開催



## 事業をふりかえって（工夫した点や苦労した点、今後の展開など）

■家族だけでのつながりから、病院へアプローチすることが叶わなかった。

もっと必要性をアピールしていきたい。

■相談をしたい家族たちも、もっと具体的に おうちでの暮らし についての専門知識をもつ専門家を必要としていることがわかりました。今後は、おうちの専門家と一緒に悩みにすぐ対応できるようにしていきます。

## Music Fountain at 高校生ラップバトル 2017

NPO公益活動支援事業（補助金）

◆団体名：特非）北九州音楽の街実行委員会

◆事業年度：平成29年度



### 団体の概要

音楽を通じた文化振興に関する事業を行い、子供からお年寄りまで世代を超えた心豊かな芸術文化に夜街づくり、人づくりに寄与することを目的とした団体

### 事業の目的と概要

北九州市小倉の中心に位置する堺町公園は、中心にあるにも関わらず、暗いイメージで平日夜など誰一人として公園を利用しようとしません。北九州のイメージは昔に比べると良くなったものの、平成27年度市民意識調査の結果でもわかるように、市政要望第4位「防犯・暴力追放の推進」になるほど、まだまだ暴力団の街としてのダークなイメージがついており、それに加え中心部の暗い雰囲気により不安な印象を与え、北九州市民はもちろん県外そして海外からの観光客にも良い印象を与えません。

そこで、去年私たち団体が堺町公園で暗いイメージを音楽の力で崩し、北九州市民に音楽の街というイメージを与えようという目的のもと、キッズ向けのダンスイベントを実施しました。イベントは盛り上がりましたがまだまだ堺町公園の暗いイメージは強く、今尚堺町を中心とした小倉の街の活性化は課題の一つです。そして今年も継続して音楽のイメージを浸透させる為に、去年のイベント内容からステップアップさせ、より多くの方が、そして若い世代が知っているアーティストを招聘し、暗いイメージから明るいイメージに変えていきたいと思っております。

そして今回のイベントでは、北九州では体験できないビッグなアーティストですので、それを体感した若い世代の方たちに北九州の魅力を感じさせることができ、他県への進学、就職を食い止めることにも繋がっていくのではないかと考えております。

---

## 事業費とその主な内容

---

■事業費 1,033,600円（うち補助金額 500,000円）

アーティスト出演費、委託費（会場設営代）、広告宣伝費（デザイン代・印刷代）、旅費交通費（出演者宿泊費・交通費）

---

## 事業の成果

---

事業の目標集客予想以上の集客となりターゲットであった高校生以外にも大学生・社会人と幅広い層の集客となり堺町公演が新しいカルチャーの発祥となる雰囲気となった！

このイベントを通じ・社会現象ともなっているRAP言葉遊びを通じ学んでもらえるきっかけとなったと考えられる！

また、賑わいという点でも出演者のSNS等からの発信により、今までの怖い堺町公園から若者が集う堺町公園として発信できたことが収穫だと思う。



---

## 事業をふりかえって（工夫した点や苦労した点、今後の展開など）

---

■著名な方を招聘してのLIVEを開催するにあたり、音響・照明等のLIVE環境が整備されていないなかでの、LIVEだったため、もっと音響整備を充実した準備ができるとさらにアーティストのパフォーマンスをより良いものとして集まった人に見せたのではと思う。

---

---

## 第 17 回川に学ぶ体験活動全国大会 in 北九州プレポストイベント

NPO公益活動支援事業（補助金）

◆団体名：NPO法人川塾北九州

◆事業年度：平成29年度



### 団体の概要

---

地球環境の根幹ともいえる水循環を担う川を理解する「川に学ぶ」という理念のもと、川を構成する流域で継続的な自然体験活動を通じて自然の素晴らしさと大切さを伝え、生きる力と感じる力を育み、この活動の普遍化に向けて様々な分野や地域と交流や支援を行うため、NPO法人となりました。

紫川だれでもカヌー（身体に障害のある子ども達が川を安全に楽しめる事業）を継続しながら、川の指導者育成や自然体験活動を通じて、河川、自然環境の保全及び、心のかよった豊かな社会の創出に寄与することを目的とする。

### 事業の目的と概要

---

本大会は、全国の川に学ぶ体験活動協議会のメンバーや指導者及び、川に関する活動を行っている全国の活動者などが一堂に集まり、川との多様な係わり、川づくり、様々な体験活動、河川防災などについて、先進的な紫川マイタウン・マイリバー整備区間で学ぶことによって「川の力」を再認識し、「川に学ぶ社会」を推進させ、人間と自然が共生するための行動意欲を育み、環境や社会問題を解決させるものです。

また、全国との繋がりを設けることで、北九州地域の川づくり団体を活性化させ、川づくりや川の賑わいに貢献できる。また、美しい河川景観と街の安全性を全国にアピールできる良い機会となりました。

### 事業費とその主な内容

---

■事業費 998,208 円（うち補助金額 490,000 円）

委託費（SUP・E ボート・カヌー代）、賃金（アルバイト代）、報償費（イベント謝礼金）、旅費・交通費（旅費代）、備品費（スタッフ T シャツ代など）、消耗品費・材料費（レスキューロープ代など）、役務費（保険料）



## 事業の成果

平成29年の10月14日～15日にかけて北九州市の紫川マイタウン・マイリバー整備区間において、川に関する活動を行っている全国の活動者などが一堂に集まり、川との多様な係わり、川づくり、様々な体験活動、河川防災などについて、全国の先進事例を学び・議論を行うことにより「川の力」を再認識し、「川に学ぶ社会」を推進させることにより、環境や社会問題を解決する全国大会を開催しました。

その大会の前後において、全国からの参加者に対してのおもてなし。

公害から蘇った紫川を体験してもらうため、カヌーやEボート体験・川で健康になる川ヨガ体験などのイベントを行いました。実際に紫川での体験ができると共に、美しい河川景観と

また、街の安全性を全国にアピールできる良い機会となりました。

40年前、紫川はドブ川で汚いと罵られてきましたが今では泳げるほどに水質が改善され様々なイベントが開催されるようになりました。

しかし、年間を通して恒常的に行なわれている行事は、リバークラブの河川清掃ぐらいです。今回のイベントを行うにあたり、多様な団体に協力して頂くことができ、更なる繋がりができ新しい恒常的なイベントが模索できましたので来年度から試験的に行なうことを考えています。

更に、今回のイベントでの周辺商業施設への波及効果は大きかったと考えられます。

開催場所：紫川河口周辺 スタッフ：32人 全国からの参加人数：62人



## 事業をふりかえって（工夫した点や苦労した点、今後の展開など）

いろいろな立場の人や団体との調整（安全管理）が非常に困難でした。

川でのひとつの事故が、川の活動の全体にプレーキがかかります。

それぞれの団体が安全管理の目標が違うので、同じイベントを行なう場合には、同じ目標に立って欲しいです。

特に、公共空間の紫川で行なう場合は、どのイベントでも同じ安全管理目標で行えるよう統一したマニュアル作成の必要性を感じました。

今後、河川管理者、北九州市、周辺商業施設、NPO、各種団と協議して、紫川河川安全マニュアル作成して行こうと思います。

# 平和の駅運動プロジェクト

NPO公益活動支援事業（補助金）

◆団体名：太鼓と平和を考える学生連絡協議会

◆事業年度：平成29年度



## 団体の概要

太鼓と平和を考える学生連絡協議会は 2010 年から活動を始め、「北九州の学生だからできること」をモットーに小倉に古くから伝わる伝統芸能、小倉祇園太鼓を用いた平和活動を行っている。福岡県北九州市小倉は原爆から二度も逃れた都市である。私たちは、小倉にこのような歴史があることを北九州市民の方々をはじめとする多くの方に知っていただき、平和への思いが一時的なものではなく常に人の心にあり続けるものであるということを発信するため、自分たちの活動を「平和の駅運動」と称し、一年を通して様々な地で活動している。

## 事業の目的と概要

1945 年 8 月 8 日、八幡大空襲により戦火に包まれた八幡を知らない世代が増えてきた。またそのために小倉に原爆が投下されなかったことも知らない。戦争を知らない世代が増えると戦争が何故いけないのか理解されにくくなる。そこで、どの世代にも共感を得られる音楽という手段を使い、平和の大切さを市民が改めて考える機会を設ける。

1945 年 8 月 9 日 11 時ごろ、長崎に落とされた原爆は当初、小倉に投下される予定であった。しかし、周囲の空襲の影響で小倉は原爆から逃れることになり、結果、長崎に原爆が落とされた。北九州市民は、小倉と長崎にこのような歴史があること、原爆によって多くの命が奪われたことを決して忘れてはいけない。そこで、小倉に長く伝承されてきた芸能文化である「小倉祇園太鼓」を基とした平和太鼓や本土での戦闘で多大な被害を受けた沖縄県の伝統文化である沖縄エイサーなどを披露し、平和を祈念する。

### ■第 2 回北九州平和音楽祭

8 月 8 日、八幡にある平野市民センターにて第 2 回北九州平和音楽祭を開催した。内容としては空襲体験者による語りや八幡市民主催の戦争に関するイベントを開催。その後、北九州市内で活躍しているアーティストによる平和コンサートを開催し、市民が平和について考える機会を設けた。その他に、平和や八幡大空襲に関する展示をし、市民が戦争や八幡大空襲の悲惨さの再認知を行うと共に、平和への興味・関心を高める機会を作る場を提供し、戦争を知らない世代へ伝えていく活動を行った。

### ■第 8 回学生平和太鼓フェスティバル

8 月 9 日、小倉北区にある紫江's 前水上ステージにて第 8 回学生平和太鼓フェスティバルを開催した。長崎出身のアーティストによる歌の披露、小倉祇園太鼓や沖縄エイサーの演奏を通して市民と共に戦争や平和について改めて考える機会作りを行った。

## 事業費とその主な内容

■事業費 402,502円（うち補助金額 199,000円）

消耗品・材料費（キャンドル、毛糸、ライター等）、委託費（イベント運営費、音響費）、報償費（出演料、謝礼金）、印刷製本費（うち印刷費）

## 事業の成果

北九州平和音楽祭を通しては、平野市民センターや地域の方々から若者がこのような活動をしてきて嬉しいという言葉が数多くいただくことができた。また、今回の活動が2回目であることから市民センターの方々や市民の方々との交流が増え、戦争に対する会に呼ばれ積極的に参加している。

学生平和太鼓フェスティバルを通しては、市民の方々の参加が増加し、子ども達を連れて見に来てくださる方もいらっしゃった。また今回の活動を見て一緒に活動を行いたいという団体にも声をかけていただいた。



## 事業をふりかえって（工夫した点や苦勞した点、今後の展開など）

### ■第2回北九州平和音楽祭

- ・この活動は学生だけでなく一緒に活動を行ってくださる大人の方々（社会人サポーター、団体）もいらっしゃるので、その方々との連携が取れていない面もあったため、次年度からは事前の打ち合わせにおいても密な関わりや当日は逐一報告、連絡をするなどに努める。
- ・地域の方々が北九州平和音楽祭を鑑賞し、平和について考えるだけで終わらせるのではなく、地域の方々も共に参加できるような企画にする。
- ・八幡にある九州国際大学にも参加してもらいなど若い世代に関わってもらい機会づくりを行う。

### ■第8回学生平和太鼓フェスティバル

- ・雨が降ってその状況にあった対応ができていなかった面があったので、次年度からはどんな状況下においてもしっかりとリスクマネジメントが行えるようにする。
- ・唯一、他大学生も関わっている活動であるが、現時点では北九大生が主で活動しているので他大学も含めた大学生が中心となって活動をしていく。



## 地域古民家を活用した体験型学童保育事業（長期休み期間）

NPO公益活動支援事業（補助金）

◆団体名：NPO法人光楽園

◆事業年度：平成29年度



### 団体の概要

1. 設立 平成26年6月

2. 目的

北九州市内において、暖かく家庭的な雰囲気のもと、自然や人とのふれ合いを大切にした保育園の運営等を行い、地域における子育て環境の醸成に寄与するとともに、次代を担う子どもたちの健全育成を図ることを目的とする。

3. 組織状況 平成31年1月現在 正会員数72名 賛助会員数9名（法人2・個人7）

4. 沿革

- ・平成26年6月法人設立 認可外保育施設おひさまいっぱい光楽園及びみんなの託児所光楽園を運営
- ・平成28年4月みんなの託児所光楽園を閉所
- ・平成29年5月児童発達支援施設 みんなの光楽園を開所
- ・平成29年7月「地域古民家を活用した体験型学童保育事業開始
- ・平成30年4月おひさまいっぱい光楽園が、認定こども園おひさまいっぱい光楽園となる。
- ・平成30年度も学童保育事業は継続

### 事業の目的と概要

1. 生活体験型学童保育事業の目的

- (1) 長期休み期間のみ学童を受け入れてほしいという要望に対応する
- (2) 学童にとって、楽しい休みに長期休みにする
- (3) 現在の日常生活の中では得にくい様々な「生活体験」「自然体験」を通じて、学童の豊かな人間性を育む

2. 夏休み学童保育の内容

- (1) 期間 夏休み7月21日～8月31日（日曜日・祭日・お盆休み除く）
- (2) 参加学童 14名（光楽園OB11名・新規3名）  
※合計26日、延べ248名の参加
- (3) 受け入れ態勢 職員（尾籠）1名、アルバイト4名のローテ

- (4) 実施場所 おひさまいっぱい光楽園・みかんの家
- (5) 基本の流れ
- (6) イベント
- ◆ 7月21日(金) みかんの家にて、夏休みの活動スケジュールについてミーティング(学童5名)
  - ◆ 7月26日(水) 小倉南区河畔プール(学童11名)
  - ◆ 8月2日(水) 小倉南区河畔プール(学童10名)
  - ◆ 8月9日(水) 第7回学生平和太鼓フェスティバル参加(学童5名)
  - ◆ 8月10日(木) みかんの家にて、羽釜ごはん、カレーを調理し、食べる(学童7名)
  - ◆ 8月17日(木)～18日(金) 赤村キャンプ(学童8名)  
17日:赤村源じいの森にて川遊び、赤村塾にて羽釜ごはん・夏野菜カレー・夏野菜サラダ作り  
18日:戸城山登山
  - ◆ 8月25日(金) 小倉南区河畔プール(学童12名)
  - ◆ 8月28日(月)～30日(水) みかんの家にて、薪割りや火おこし等の練習
  - ◆ 8月31日(木) みかんの家にて、羽釜ごはん、カレー、豚汁を調理し食べる&薪の風呂を沸かして入る(学童13名)

### 3. 冬休み学童保育の内容

- (1) 期間 冬休み12月25日～1月5日(12月29～1月3日は休み)
- (2) 参加学童 9名(光楽園OB8名・新規1名)  
※合計6日、延べ54名の参加
- (3) 受け入れ態勢 職員(尾籠)1名、アルバイト1名
- (4) 実施場所 おひさまいっぱい光楽園・みかんの家
- (5) 基本の流れ ※夏休みとほぼ同じ
- (6) イベント
- ◆ 12月27日(水) みかんの家にて、もちつき体験(学童9名)
  - ◆ 1月5日(金) 一足早い七草がゆ作り(学童9名)

### 4. 春休み学童保育の内容

- (1) 期間 春休み3月26日～3月30日
- (2) 参加学童 13名(光楽園OB11名・その他3名)  
※合計5日、延べ65名の参加
- (3) 受け入れ態勢 職員(尾籠)1名、アルバイト1名
- (4) 実施場所 おひさまいっぱい光楽園・みかんの家
- (5) 基本の流れ ※夏休みとほぼ同じ
- (6) イベント
- ◆ 3月28日(水) 平尾台 大平山登山(学童14名)
  - ◆ 3月30日(金) 竹炭づくり体験&竹炭バーベキュー(学童13名)

## 事業費とその主な内容

■事業費 597,521 円 （うち補助金額 298,000 円）

賃金（アルバイト賃金）報償費（講師料他）、消耗品・材料費（調理体験等）  
使用料（みかんの家賃借料・リカー代）262,210 円

## 事業の成果

- (1) 光楽園のOB以外の学童4名が利用をはじめ、最終的には1日平均13～14名の学童が参加するようになった。さらに今後増えそうな見込み。（光楽園OBで3～4名、その他新規で2～3名）
- (2) KIDSWORK大久保さんの協力で、参加学童たちは火起こしや材木切りや竹材切り、調理、その他野外活動等の技術を学ぶことができ、より豊かな生活体験・自然体験を積むことができた。（羽釜のご飯は最初は失敗。でも2度目以降はとてもおいしく炊け、まわりのおこげもおいしく味わった。）子どもたちはとてもいきいきとした表情を見せるようになった。
- (3) みかんの家を拠点とした活動・生活パターンが確立・定着し、子どもたちの人間関係も形成され、今後の活動の基礎ができはじめた。
- (4) 経費的に年間600,000円前後で運営できそう（講師料は2年目以降は必要なくなる）な見込み。一方で利用者は18～20名、利用者負担一人当たり年間35,000円程度でペイできるため、事業の自立化の目途が立った。
- (5) KIDSWORKの大久保さんを通じて、その活動を支える人や団体とのつながり・パイプができたことで、今後子どもの成長や発達につながる幅広い活動を連携・協力しながらすすめる足掛かりができた。



---

## 事業をふりかえって（工夫した点や苦労した点、今後の展開など）

---

- （1）冬・春のアルバイト手配がうまくいかず、体制が整わなかったため、特に冬休みは募集を一定制限せざるを得なかった。年間を通した体制作りが課題。
  - （2）光楽園の職員の参加がほぼ主催者の尾籠のみとなったため、運営経験を他の職員に広げることができなかった。次年度は複数体制で臨み、運営経験を広げたい。
  - （3）手探り状態で始めたため、光楽園以外の子どもの募集は主に口コミのみにとどめざるを得なかった。今後HP等を使った呼びかけを進めていきたい。
  - （4）一方で20名を超える児童数となると、現状のみかんの家だけでは拠点が不十分となりそう。今後他の古民家情報等を集め、新たな拠点となる場を探していく必要あり。
-



# 地域住民への医療教育セミナー

NPO公益活動支援事業（補助金）

◆団体名：NPO法人地域医療連繋団体Needs

◆事業年度：平成29年度



## 団体の概要

この法人は病院内ではなく、地域で国民に対して医療を提供することで、医療は身近なものであるということを啓発する。提供する医療内容は主に教育、予防、緩和といった領域である。活動を通して、日本国民の医療に対する関心及び知識水準を上げることに貢献する。また、同時に福祉や介護、その他の職種とも連携をとり、その地域にあった地域包括ケアの形をマネジメントしていくことで、超高齢大国となった日本において、高齢者及びその家族が住みやすいまちづくりに寄与する。

## 事業の目的と概要

### 「目的」

地域住民が自身の健康状態について興味関心があるかを調査。

調査と共に医療従事者からのセミナーと参加者を含めたディスカッションにて地域住民への医療、健康についての意識向上を目指す。

### 「概要」

#### 1部

##### ■NPO法人 Needs について説明

広報媒体はチラシ、SNSを使用したので私たち法人のことを知らない人も全体の20%を占めていた。そのため、法人について説明が必要と考えこちらのプログラムを最初に実施。

##### ■北九州市の医療・福祉における現状と課題

こちらについては事前に北九州市民の方に集まる機会を設けており自身が住む医療福祉の課題を抽出するという作業をしていただいていた。その抽出課題について当日は法人スタッフがまとめて公表。その課題について参加者は傾聴し解決策を考える時間を設けた。

##### ■ゲスト講演

当日は八幡西区にて既に献身的に地域住民主体とした地域包括ケアについて行動している社会福祉法人「もやい聖友会」の理事長である権頭 喜美恵氏を招待して現在北九州市内にて実施している医療福祉の活動をセミナー形式で参加者に話していただいた。

##### ■北九州市で今から必要なこと

上記を傾聴した参加者へそれらを踏まえて今後北九州市ではどのように考え地域で医療福祉を考える必要があるか説明。

## 2部

### ■他地域での取り組み

1部では北九州市に焦点を当てて話を展開してきたが、全国ではどのような取り組みが地域でなされているかを、実際に現地（名古屋）で働いたことのある医師から説明。

### ■住民主体の健康まちづくり（ワークショップ）

上記までのセミナーから北九州市における医療福祉の課題や、取り組みについてのアイデアが見えたところで50名を5名ずつのグループに分け、それぞれ法人のスタッフがグループごとにファシリテーターとして参加。各班各自で課題を再整理してその課題において、今後自分たちがどのように解決に導いていけるかを発表する時間を設けた。

## 事業費とその主な内容

### ■事業費 424,081円（うち補助金額 212,000円）

賃金（アルバイト代）、報償費（講師代）、旅費・交通費、備品費（事業ユニフォーム代）  
消耗品・材料費（インク代、用紙）、印刷製本代（ポスター、ロゴデザイン）  
使用料（会場使用料）

## 事業の成果

まず始めに当法人は北九州市を拠点として設立したのは1年6ヶ月（2月10日時点）であった。短い設立期間にも関わらず10代～70代までの幅広い年齢層や他職種の住民が集まったことも一つの成果だと考える。

大きく分けてA. アンケート結果による客観的な成果、B. 継続の必要性、C. 付随したその他成果の3項目について成果報告可能なため以下に記述していく。

### 「アンケート結果」

#### A アンケート結果による客観的な成果

課題、期待にも様々な声が寄せられたが結果的に参加者の多くが今回の事業にて自身の健康および、自身が住む北九州市において関心を持つという成果に繋がった。

#### B 継続の必要性

参加者には事前に名札を配布、着用して頂いていた。その名札を事業終了時に、今後も継続的に本事業を実施した場合は参加したいと思う方は帰り際に事前準備していたBOXに投入して下さるよう促した。その結果参加者51名全ての方が名札を投入して下さる結果となった。この結果は本事業における継続の必要性を結論づけるものとする。

#### C 付随したその他の成果

今回本事業において地元は北九州市や福岡県であるが就業の関係で全国各地に点在する法人スタッフを呼び各人が北九州市以外で培ってきた知識共有もセミナーの中で適時実施した。その結果、多くの人が自身の住む地域以外のことに関心を持ち、これからも住み続ける北九州市において新たな視点を取り入れることができたと多く意見いただいた。

また、事業終了後は上記を表す化のように多くの参加者が法人スタッフに声かけをして個人的に情報共有を求めるなど医療従事者と地域住民の距離を身近にする、他地域で働く医療従事者を呼び事業を実施するといった法人自身の目標も達成出来たと考える。



## 事業をふりかえって（工夫した点や苦労した点、今後の展開など）

### ■反省点

今回事業に際して多数の北九州市在住者に参加して頂いたが、参加できた人以外の方、即ちこのような場に参加して頂きたいが地域や家から出ることの出来ない社会課題を抱えた方が1人も参加していなかったのは問題と考える。医療福祉に限らず社会課題は地域にあるため、このような場に足を運ぶことが出来ない地域の方々にアプローチ出来なかったのは反省点の1つである。

次の反省点はアンケート回収についてである。当日は会場設営や参加者案内などスタッフ間の連携がうまくいかない場面も多々見られており、折角50名を超える地域住民の方が参加して下さったにも関わらず参加者全ての意見を回収できなかったことはスタッフ間の連携不足、事前準備不足と考える。

### ■今後の展開

今後の目標については、上記結果からも事業を継続して実施して欲しいという地域住民からの要望があるので今後も継続的に事業実施して行きたいと考える。また今回表出した医療福祉における地域課題に関しては地域住民とともに解決案を話し合う中で随時行動に繋げていければと考える。

また、今回参加者の特徴として北九州で点在している他NPO法人や個人事業主などの参加も多数見受けられた。各自が実施している取り組みについてはどこかで繋がる部分が多い。地域課題解決に向けた実用的な取り組みばかりなので、事業継続した際には当法人が中心となり他法人連携を促し一丸となった地域課題解決を目指して行きたい。